

令和5年度

岩脇小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分の考えを進んで表現しようとする力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

委員：村上耕太郎(校長)・磯部茂仁(教頭)・入口和美(教務・1年)・鹿島順子(特別支援)・森下淳子(学力向上・4年)・三好美佐(研修・6年)

校長

村上 耕太郎



【各校の取組状況の把握について】

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

研究授業(大研・小研)や職員研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや簡単な計算は、おおむね習得できている。  ●語彙が少なく、自分の考えを表現することに苦手意識を持っている児童がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、自主学習ノートや作文・日記に進んで活用できる。  ・習得した知識をもとに課題解決に対するの見通しを持つとともに、自分の考えを図や文章に進んで表現できる。	・朝の活動や授業の導入を利用して漢字や計算などの基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・テーマ日記・読書日記や行事作文に取り組みせ、発達段階に即した漢字の習得や表現の仕方の定着を図る。 ・課題や条件に合わせてノートに学習のまとめをさせ、適切に表現する力を身につけさせる。 ・タブレット等のICTを活用し、視覚的に支援することで多面的に思考したり理解を深めたりできるようにする。	・書くことに抵抗感がある児童には、書くことの負担が軽減できるような個に応じたタブレットの活用のかたを工夫する。 ・短時間で漢字や計算のスキル向上ができる練習問題を取り入れる。	・漢字や計算などの基礎的・基本的な力の定着が多く児童に見られた。 ・毎日の日記や行事作文を書く機会を増やしたことで、学年の発達段階に応じた文章が書けるようになってきた。 ・タブレットの活用により、個に応じた問題を出題したり支援したりすることができ、学習の習熟度が上がった。	・書く活動をさらに増やしたり指導法を研究したりすることで、語彙の習得をめざす。  ・苦手な問題や間違えた問題の直しをする習慣をつけることで、学力の定着をめざす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表の方法や手順がわかると意欲的に学習に取り組むことができる。  ●筋道を立てて考えたり他人の意見と自分の考えを比べたりすることが苦手な児童が多い。 ●問われている内容を読み取り、課題や目的に応じて表現したりさらに発展させて考えたりする力が不十分である。	・課題や目的に応じて筋道を立てて考え、理由や根拠を明らかにして、自分の考えを進んで表現し、課題解決できる。  ・目的に応じて5W1Hを意識した表現ができる。  ・聞く態度を身につけるとともに、ポイントを明確にして聞いたり話したりすることができる。	・教材や発問を工夫し、筋道を立てて考えられるようにする。 ・行事や体験活動を通して、感じたことや自分の考えを表現できるようにする。 ・ペアトーク・グループ討論・ディベート等の学習活動を効果的に取り入れる。 ・タブレットを活用し、効率よく意見を発信させたり友達の考えに触れたりする機会を適切に設ける。	・ペアやグループでの活動時に、自分の考えを分かりやすく伝えるようにするため、話の組み立てを考えさせる。	・グループでの話し合い活動において、役割を決めて取り組んだことで、話の組み立てを考えると児童が増えた。 ・わけを話す機会を多く取り入れたことで、話す習慣を身に付けることができた。 ・タブレットの活用により、考えの共有がしやすくなり、多様な考えから自分の考えを深めることができた。	・話し合い活動において、自分の考えを伝えるだけでなく、友達の意見と比較するなどすることで、さらに考えを深められるようにする。  ・授業の振り返りを言語化するなどして、自分の考えを表現する機会を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習や基本的生活習慣が定着している児童が多く、与えられた課題については真面目に取り組む。  ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手で、家庭での読書時間も少ないため、語彙も少ない。	・家庭学習では進んで課題に取り組み、苦手な課題にも根気よく取り組むことができる。  ・家庭でも進んで読書をしたり、興味・関心を持って新聞を読んだりして、考えや視野を広げ、語彙を増やせるようにする。	・視写などを日常的に行い、様々な表現方法に触れるようにする。 ・休日を親子読書の日と設定したり、図書館サポーターによるおすすめの本紹介の機会を効果的に取り入れたりして、読書への興味・関心を引き出すようにする。 ・新聞切り抜きコンクールや新聞感想文コンクールに応募する。	・学校行事や学習内容とからめた新聞の切り抜きや家庭読書などを設定する。	・朝活の利用や図書館サポーターの協力により、読書に親しむ機会が増え、意欲的に読書をする児童が増えた。 ・新聞関連のコンクールに参加したことで、社会や理科、総合的な学習の時間に関連した話題に触れる機会が増え、社会の変化等に興味・関心を広げることにつながった。	・家庭読書をさらに推奨する。  ・教室環境に新聞や読ませたい本などの掲示を整備し、活字に触れる機会を増やす。  ・発達段階に応じて新聞記事の切り抜きを継続して行う。

令和5年度 学力向上ロードマップ



